

SHINGON HORONIC

色 は 匂 へ ど

IRO

WA

NIO

E

DO



特集 御大師様と美しき人 甲山 神呪寺

平成十六年弥生 卷三十

お灯明（分けるほどに、ふえるもの）

お寺にお参りをすると
かならず お明かりをあげます

お明かりに導かれて
小さなお堂を発見することもあります

すでに上がっている お明かりから
火を分けていただき
お明かりを上げます

お明かりは 分けるほどに
輝き合い 人も導きます



特集 お大師様と美しき人

甲山 神呪寺

3



お釈迦さま 真理の花束 9



曉幾 天未 啓成

11

加藤達成

空海は細井広澤を呼ぶ

書縁は奇瑞を生む

ジャータカ物語 ネズミの恩返し 13



新刊紹介

18



現代の道しるべ 実語教 日本人の徳目 17

特集 お大師さまと美しき女

甲山 神呪寺（かぶとやま かんのうじ）

西宮市に甲山という美しい山があります。ちょうど兜を伏せたような姿です。一九〇年頃に神功皇后じんこうごうが平和を祈念して金の兜を埋めたと伝えられています。

山頂からは大阪平野や大阪湾が一望できますが、この山の中腹に神呪寺があります。

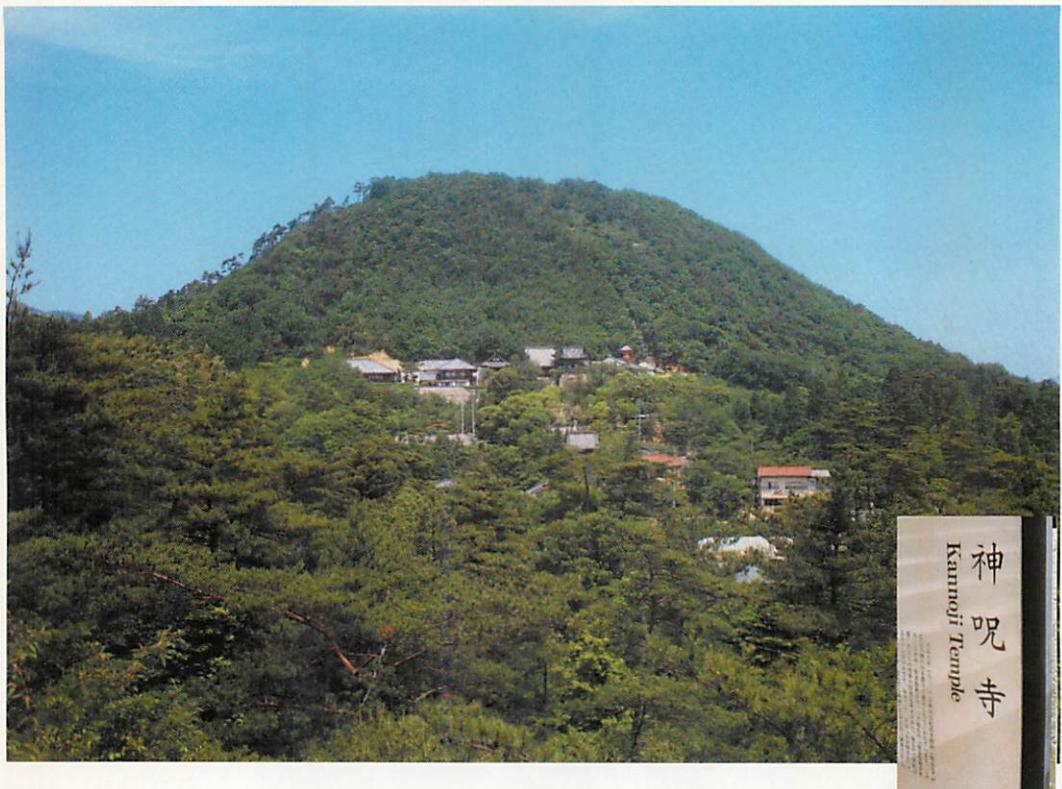
新緑の美しい五月十八日に秘仏の如意輪觀音様がご開帳されます。

河内の觀心寺と室生寺の如意輪觀音とともに日本の三如意輪とも云われる觀音様ですが、とてもふくよかで生命感溢れる美しい女性を思わせるお姿です。

神呪寺の如意輪様はお大師さまが、この山の中を歩かれ見出された桜の靈木に自ら彫り上げられたものです。そしてそのお姿は真井御前、僧名如意尼むねのうという美しき女性のお姿を写したもののです。

真井御前は浦島太郎で有名な京都の北、与謝よせの出身ですが、早くから都に上りその美貌から淳和天皇の妃となりました。とても慈悲心が深く如意輪觀音を信仰していく仏門に強く惹かれていきました。ついにお大師さまのもとで出家し如意尼という僧名を授かりましたが、あるときこの山で神秘的な体験をします。

如意尼はこの山に如意輪觀音を本尊様とするお寺を建立することを発願します。





新緑の美しい境内には花が咲き乱れ大塔の朱が陽光に映える



浦島太郎と如意尼とお大師さま

真井御前は師であるお大師さまをこの山にお招きしました。弘法大師空海が自らのみをふるわれた如意輪觀音を本尊とする寺院が建立され、この寺はお大師さまによつて神呪寺と名付けられました。「神呪」の二文字は般若心經にもある言葉で「ご真言」聖なる尊い仏様の眞実の言葉を意味しています。真井御前は自らが発願し建立した神呪寺の本尊様の前で出家しました。お大師さまから如意輪法という法によつて秘密灌頂もさずかりました。僧名は如意尼と名付けられました。如意尼は髪を切りその三分の一をお大師さまにお渡しし、三分の一を天皇へお届けし、のこりの三分の一は今なおこの如意輪様の前に置かれています。

またこの如意輪様の胎内にはある箱が納められています。その箱の正式な名前は「紫雲筐」といわれますが、実はこの筐が浦島太郎が竜宮城からとも蓬萊の島からとも云われる彼方から持ち帰った「玉手箱」でした。真井御前が出家される八年前、國中に日照りが続き天皇は守敏という僧とお大師さまに雨乞いを頼みます。守敏の法は力が無く雨は降りませんでした。真井御前は「紫雲筐」をお大師さまに渡し雨が降ることを願いました。お大師さまは都の神泉苑でこの「紫雲筐」を使い法を修すると見事に雨が降り國中がその恵みで潤いました。お大師さまは「喜雨の歌」を編まれ自らもこの雨を喜ばれました。



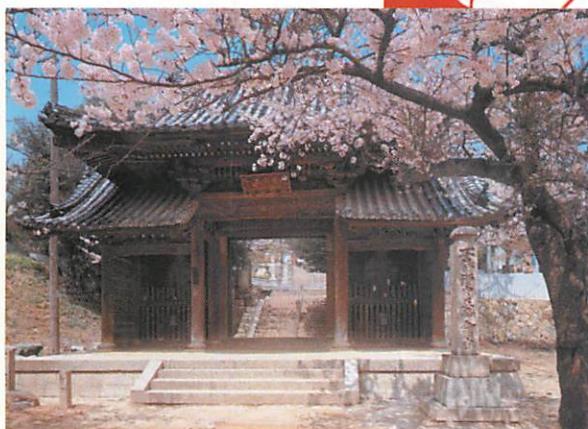
ご開帳の日には大勢の善男善女が集まり法要に会う



如意尼真井御前のお姿を写した實にふくよかで美しい如意輪觀音
弘法大師が甲山で見いだされた桜の靈木を自らのみをふるって造建された。
その胎内には浦島太郎が蓬萊の島から持ち帰ったという「紫雲筐」が納
められ尊藏の前には真井御前の髪の三分の一が奉安されている。

如意輪觀音

如意は如意宝珠の意味で右手に捧げもたれ、人々に福德を
施し、輪は左手の人差し指の上の捧げられ人々に智慧を施す。
一尊で福德と智慧の二徳を授ける。
また真言密教の修行者が最初に行う行法の本尊。



如意尼は神呪寺落成の四年後、承和二年（八三五）の三月二十日に三十三歳の若さでこの世を去りました。
その翌日の承和二年三月二十一日に奇しくも弘法大師が高野山の奥の院にご入定されました。



3月中旬、東京「弘法大師墨蹟聚集刊行会」代表阿部龍文氏から電話があり、「京都へ出向きて相談したい」との申入れを賜り、5月16日四条センターでの講座終了後、口べーで会う約束を交したのである。当日、講座の末席で僧服姿の老僧が講義をじっと聴いておられるお姿に目を引かれた。この時、この方が書縁の奇瑞をたずねた恩人であるとは知る術もなかった。

センターの控室で初対面の挨拶を交わし、次いで、阿部上人から、「前回開催された東京展を京都・奈良の二箇所で開きたい旨、ご協力を乞う」との懇請を賜った。私は京都会場としての利便性から三条高倉の京都文化博物館を挙げ、学芸員を紹介した。後に、阿部上人より、その日のうちに文化博物館を尋ねたところ展示会場として最適な場所だったので、即座に決めて使用願を出してきましたと、概要を承った。両者は自坊の様子などに話がはずみ、愉快な晩席となった。そして、打ち解けるうちに耳を疑うようなことが話題となった。阿部上人曰く、「自坊の境内墓地には、江戸時代の書家、細井広澤のお墓があり、彼の遺作も寺に寄進され、多くの作品が今も残っている。さらには、書家の御所的存在であった植村和堂先生（昨年九月没）から広澤の「觀鶯百譚」を譲り受けた」といった話が飛び出したのである。「ひょうたんから駒」とはまさにこのことであろう。舞い上がった気分に乗せられた私は、阿部上人の顔をのぞき込むような眼差で、ぜひぜひ拝見させてくださいと懇願せずにはいられなかった。後日、気持ちを押さえ押さえして、阿部上人のお寺（満願寺）へ伺い、念願であった「觀鶯百譚」を拝見することになる。

「書の曼荼羅世界」京都展のお世話をすることも書縁が取りもつ奇瑞であったと喜ばずにはいられない。否、空海が広澤を呼び寄せた摩訶不思議なドッキングとしか言いようがない。私の号は「龍堂」であり、阿部上人の名前は「龍

文」である。これも奇縁としか考えられない。書縁が幾重にも重なって積年の願いが実現するものであると感謝せざにはいられない今日この頃である。

日を追って、長男と孫に付きそわれて世田谷の満願寺を訪れ、阿部上人のご配慮により、広澤の墓参りをすませ、念願の印本「觀鶯百譚」を紐解くことができた。五冊本の古書で、胸の高鳴りを覚えた。また広澤の真筆と称する屏風、並びに全紙型なども拝見することができ、誠に有難い極みであった。

「書の曼荼羅世界」展は、平成15年6月17日～21日で5日間にわたり京都文化博物館で開催された。初日は弘法大師ゆかりの真言宗各派の名僧が集い阿部龍文上人を中心テープカットが行われた。私も加えていただく光栄に浴した。開場を今か今かと待つ大勢の中に、佛教大学四条センター「文字文化と書」の受講生の顔を多く見ることができたことは、火付役の私にとってまことに喜ばしいことであった。

本年は四条センター開設20周年に当たる記念すべき年である。記念にふさわしい一年間の題材は、「觀鶯百譚」細井広澤論をおいて他にはないと言える。良いことづくめにまた、ラッキーが舞い込んだ。東京水道橋の古書店の主人から「觀鶯百譚」を入手したとの朗報が入り、上京して、満願寺所蔵の印本と同様のものとわかるや否や早速購入した。資料に不足なく、これで活字版国書刊行会編「日本書書苑」上下巻本の私蔵本と併せて、4月の講座開講から活用することができる。本講座担当も14年目となり長期化した。孫過庭の書譜に「人書俱老」をモットーに奇瑞を生かせる人生でありたいと今は、老体（数え81歳）に鞭打つ日々である。

佛教大学四条センター会報から転載



書縁は奇瑞を生む
空海は細井広澤を呼ぶ
加藤 達成

佛教大学元教授

1990年4月から担当した講座「文字文化と書」は13年を経過、多くの受講生に接触し書道を通じて人の輪が広まった。

昨年は傘寿の記念書展を四条センターで開催、その勢を嘗て、最近身辺に起きた洛中洛外の書縁、主として本講座とかかわりのある事柄を述べることとした。

過去13年にわたる講座で積み残した題材が一つある。何時にも心にかかる書論で、受講生に聞かせたい、読ませたい、触れさせたい書物が「観鶯百譚」（江戸時代、細井広澤著）である。広澤は人呼んで江戸の空海と称せられ、多岐にわたった学者であり、書家でもあった。その魅力の一つに「歯に衣を着せぬ」論客というのがあげられる。書道の世界で神聖化され、書聖と言われる、かの王羲之の書論、又は伝承された執筆法について誤りである、偽作であると論及するところは彼の見識の高さによるものであった。本書はテキストとして扱いたかった古書であるが、いかんせん、当時の印本を手にすることできず、ずるずると12年の歳月を費やしていた。その間、神田の専門店、古書店を歩

き、店主の入手の労を頼んだが、「観鶯百譚」を手にすることはできず、不甲斐なさを一人かみしめていた。従って講座に題名を挙げることができないままであった。

昨年（2002年）の瀬に東京銀座を歩き、四丁目の老舗「鳩居堂」に入り正月用の紙、墨、筆などを買ったあと、ふと出口にある看板に目を止めた。「書の曼荼羅世界 弘法大師墨蹟聚集」展とあり、よくよく見ると空海の国宝、重文等の墨蹟が鳩居堂3階に一堂に展示されていることが理解された。現在、空海の真筆は容易に見学することはできない。5年に一度か、或は10年に一度あるかなきかの展示で、特別展以外は鑑賞することはできないものである。レプリカ又は、複製であっても、寸分違わない逸品であれば、書学者にとっては福音といわざるを得ない。

引きこまれるように会場に入った。そこは夢か幻かと思う錯覚に落ち入ったほど会場いっぱいに空海の墨蹟が壁面に、机上に所せましと展示されていた。看板の見だしの如く、「書の曼荼羅」は煌々しく、通常観ることのできない真蹟を目にすることができた感激は筆舌に尽くすことができない。大いなる喜びと満足感を得た私は、即座に主催者と会い、「この展覧会を東京だけで終わることなく、広く世に出し、この聚集全帖を京都・奈良で開催されてはいかがでしょう」と詰め寄った。対応に出られた方は刊行会代表のご子息、阿部龍樹氏で、私の意図を汲みとり、早急に検討すると約束して別れた。因みに鳩居堂で展示された墨蹟は、七帙に収納された22帖の逸品で、原寸と寸分違わず、古色も年代を偲ぶに足る出来栄えで、国宝12点、重文5点のほかに橘逸勢筆伊都内親王願文、などの名筆が扱われ、素晴らしい聚集物と高く評価せざるにはいられない。

ネズミの果報

絵 美香

美術指導 小原洋子先生



むかしむかし菩薩はベナレス王国の石屋に生まれ変わりました。名前はナンと言います。毎日毎日大きな重たい石を運んではトンカントンカチとノミをふるつていました。町一番、いいえ国で一番腕のいい石屋と評判です。

その町にはとてもお金持ちの夫婦がいて沢山の金貨を床の下にうめっていました。やがて夫が亡くなり、金貨が大好きだった妻も亡くなりました。しかしどうしたことか妻はネズミに生まれ変わりました。そして金貨の沢山ある床下で暮らしていました。しかしねずみに金貨は必要ありません。ネズミはいつも工サを取るのに苦労していました。町には大きな意地悪な猫がいるので工サはしそつちゅう横取りされ自分まで食べられそうになります。うまく工サをとれないネズミはいつもやせていました。

た。

ネズミは考えました。「金貨は人が使う物だ。人に使つてもらおう。」そう思つたときに目の前をナンが通りました。後光が差しているように輝いています。「この人はきっと賢く優しい人だ。」ネズミは猫をさけ重い金貨をナンの家に届けてわけを話しました。ナンは「大丈夫だよ、やせっぽちのネズミさん。これからは金貨で君の食べ物を買ってあげるよ。」そういつてナンは金貨の半分を使つてネズミにお団子やチーズを買って上げました。金貨の残りは貯金しました。

ある日ネズミが油断していると猫に捕まつてしまいまし
た。猫はネズミに「ずいぶん太ったな。何を食つてん
だ。まあ良い。今からおまえを食べてやる。」ネズミは猫
にいいました。「今私を食べれば一度きり。でも私を食べ
なければこれから毎日美味しい御馳走を上げましよう。」
それからはせつかくナンがネズミのために用意した食べ物
はすっかり猫にとられ、金貨もそこをついたネズミはまた
やせ細りました。

ナンはネズミにわけを聞きました。
ネズミが悲しそうにわけを話すとナン
は「安心しなさい。」ナンは「ためた
金貨を使おう。」と思い、貯金してい



た金貨を全部使って世界で一番の美しく透明な水晶を買いました。その水晶にナンはネズミが入れる穴を彫りました。

「いいかいネズミさん。猫が来たらこの穴に入つて猫の悪口を思いつきり言うんだよ。」ネズミは云われとおりにしました。猫はネズミをがぶりと食べようとしましたが水晶に守られたネズミに歯が立ちません。

猫はそれから二度と姿を現さなくなりました。金貨が無くなつてもナンとネズミはいつまでも仲良く楽しく暮らしました。

ジャータカ物語はお釈迦様の前世の物語です。

お釈迦様の前世は猿の王や金の白鳥やときにはかわいいウサギなど様々な生き物でした。そして多くの善行と徳を積み重ねたのでやがてお釈迦様になりました。ジャータカ物語には日本の童話やソフト物語のもとになるお話も多くあります。親が子供に読み聞かせるのにも最適です。

お釈迦様真理の花束



Happy in this world is ministering unto mother,
Happy too is ministering unto father,
Happy is ministering unto ascetics,
Happy too is ministering unto the Noble Ones.
Happy is virtue till old age,
Happy is steadfast confidence,
Happy is acquisition of wisdom,
Happy is abstinence from evil.

人 家 有 母 樂
有 父 斯 亦 樂
世 有 沙 門 樂
天 下 有 道 樂
持 戒 終 老 安
信 正 所 正 善
智 慧 最 安 身
不 犯 惡 最 安



世に母性あるは 幸いなり
父性あるも また 幸いなり
世に道を求むるものあるは 幸いなり
波羅門の性しょうあるも 幸いなり
また 幸いなり
老いの日にまで 幸いなり
戒あるは幸いなり
正信の 幸いなり
堅く樹つは 幸いなり
智慧を得るは 幸いなり
悪しきをなさざるは 幸いなり
また幸いなり

吉村先生はこの実語教に込められる十五の徳目を示され、それは智から始まる次の十五です

- 1 智（智慧）
- 2 慈悲
- 3 学問に励む
- 4 考
- 5 師君に仕える
- 6 友と交わり争わず
- 7 修行を積む
- 8 尊敬の念を持て
- 9 慈愛の心を持て
- 10 謙讓
- 11 同情
- 12 同慶
- 13 善行を勧める
- 14 悪事を戒める
- 15 貧富貴賤にとらわれるな

この素晴らしい15の徳目は今見ても輝いていて、学校教育の中で取り上げても家庭の中で読み聞かせるべき大切な徳目だと思います。

ではなぜこの素晴らしい日本人が身分貧富男女の別なく共有してきた徳目を教える実語教が消えてしまったのでしょうか。新渡戸稻造は実語教の存在を知らなかつたことは明らかです。

この実語教は弘法大師作と言い伝えられたことでもわかるように、その根幹は仏教そのものです。明治維新というのは日本の伝統や文化を捨て去ることで成し遂げられた一面があります。日本には存在しなかつた国家神道を無理にうち立て、多くの神社や鎮守を机上の図面から統廃合して山を崩し森の木々を伐採し自先の利を追いました。同時に廢仏毀釈というまさに暴力によって数十万ヶ寺を消滅させました。興福寺の五重塔が十円で売りに出され、日本人が大切に守り祈ってきた心の支えである数多くの仏像や仏教美術の数々が海外へ流出していきました。

明治三十二年には『教育に関する勅語』いわゆる『教育勅語』が出されました。この『教育勅語』には素晴らしいところもありますが、国家神道をもとに富国強兵を目指したものですから現代に復活されるには無理がありすぎます。現代の日本のモラル低下を嘆いて『教育勅語』復活を語る人々もいますが、『教育勅語』の時代は第二次世界大戦終戦のまで僅か数十年です。

今再読すべきは日本で平安時代末から江戸時代まで貧富身分老若男女の別なく連綿と読み語り継がれ、日本人の心に共有されてきたこの実語教ではないでしょうか。

実語とは多くの仏典に出てくる言葉です。また実語教とともに童子教という子供達への教えが合わせて教えられていました。



現代の道しるべ（P17から続く）

武士道が再発見され、誇り高く生きようとする日本人が増えることは素晴らしいと思います。しかし日本人の道徳の基礎を武士道に求める新渡戸氏の考えには無理があります。日本人の大部分が農民で、江戸、大阪などの都市部には町人や職人も多数いました。

幕府を頂点に武士達が政治的な実権は握ってはいますが経済的な実権は商人達が握っていました。さらに京都には天皇と貴族公家達が住み町衆とともに独特の文化を形づくっていました。さらに日本中に広がる仏教寺院と神道に携わる人の数は武士を遙かに凌駕していました。また海幸彦、山幸彦までさかのぼれる、海の民や山の民の数も多かったはずです。全体からみれば極めて少数の武士の規範が日本人の一般道徳の規範となったという新渡戸の考えには無理があります。

では日本人の道徳の規範は何処にあったのか。私は長いことこの疑問が頭から離れませんでした。

しかし先日この疑問が氷解しました。

私の中学の恩師吉村洪先生の退任記念授業がありテーマが『実語教』でした。

以下はすべて吉村先生の講義から編集してあります。

明治初年まで、すべての日本人が共有していた道徳の教えです。弘法大師の作とも云われますが、実際には平安時代後期に完成したようです。その後日本中に広まり鎌倉時代には庶民にも広く流通し、江戸時代の寺子屋（寺子屋は関西の呼び方、関東では手習い所）では「色は匂へど」で仮名を学び実語教で漢字を習う。どちらも弘法大師の作といわれます。

しかし明治に入ってこの実語教が急速に消されていきます。その理由を明らかにする前に実語教の教えを見てみましょう。読むと知っている言葉が沢山あります。以下抜粋です。

山高きが故に貴からず。木有るをもって貴しとす。

人肥えたるが故に貴からず。智有るをもって貴しとす。

富は是一生の財。身滅すれば即ち共に滅す。

命終わればすなわち随って行く。

玉磨かざれば光無し。光無きを石瓦とす。

人学ばざれば智無し。智無きを愚人とす。

人として智無きは、木石に異ならず。

人として孝無きは、畜生に異ならず。

三学（戒と禪定と智慧）の友に交わらずんば、何ぞ七覚の林に遊ばん。

四等（慈・悲・喜・捨）の船に乗らずんば、誰か八苦の海を渡さん。

八正の道はひろしといえども、十惡の人は往かず。

無為の都に楽しむといえども、放逸の輩は遊ばず。

老いたるを敬うは父母のごとし、幼きを愛するは子弟のごとし。

我他人を敬へば、他人亦我を敬う。

己人の親を敬えば、人亦己が親を敬う。

己が身をば達せんと欲せば、先ず他人の身を達せしめよ。

他人の愁いを見ては、即ち自ら共に患うべし。

他人のよろこびを聞いては、即ち自ら共に悦ぶべし。

善を見ては速やかに行け、悪を見ては忽ち避れ。

悪を好む者は禍を招く。譬ば響きの音に応ずるがごとし。



『武士道』

新渡戸稻造著

岬 龍一郎訳

PHP

『ポップコーンはいかがですか?』

山本マーク豪著

新潮社

『イラク便り』

奥克彦著

産経新聞社

昨年の暮れに久しぶりに映画館で映画を見ました。最近はビデオもDVDもすぐに発売されるので、映画の楽しみ方も変わってきました。友人はインターネットで映画をダウンロードして手持ちのパソコンで映画を見るほどです。

ではなぜ映画館に足を運んだかというと一冊の本が書店で目に留まったからです。

『ポップコーンはいかがですか? 百億円企業を5年で作った男』という題名です。アメリカンドリームの成功物語と思って手に取ると、日本人の若者がコネもお金も無いところから、たった五年間で映画館のチェーンを創り上げた物語です。物語りと言ってももちろん実話で本人自ら書き上げていますので、資金集めの苦労から日本と外国との人間関係の異なりなど実によくわかります。読んでいると一緒に夢の映画館を作っていくようなワクワクした楽しさがあり、ここに最後に六本木ヒルズに入るためのプレゼンテーションは胸が躍りました。

山本氏が作った映画館とはどんな物だろうと思い早速六本木ヒルズに足を運びました。全体が落ち着いた色調の中でガラスの壁面を水が流れ落ちる滝がしつらえてあります。切符売り場もオープンカウンターの対面式なので話しやすく親近感が持てます。そして全席指定の上にプレミアムスクリーンというシートも広く専用ラウンジと飲食の売店もある専用スクリーンまであります。

観た映画は『ラストサムライ』です。良い映画でした。とてもハリウッド映画とは思えません。車も建物も方端から壊し人もこれでもかと云うほど死んでいくので最近のハリウッド映画はおかしいと思っていました。ハリウッドに限らず外国で日本の映画やドラマをつくると、明らかにおかしかったり中国と日本の混同があつたりして耐えられませんが、この映画に関してはほとんどそういったところが無く、映画全体も実写で緊張感もあり締まった美しい絵でした。聞くところによると監督やスタッフそして出演者達も新渡戸氏の『武士道』をなんども繰り返し読んだそうです。『武士道』は今、あらためて読んでも新鮮で学ぶところが多くあります。日露戦争のころまでは日本にも武士道が良く生きていたといわれます。捕虜にした敵将にたいして丁重に接したこと、日本が礼節を重んじる国として西欧社会に紹介されました。アメリカが行ったフセイン捕縛映像を流すことは武士道では考えられません。

日本でも消えてしまったと思える武士道ですがイラクで殉職された奥克彦大使や井ノ上正盛一等書記官の生き方に武士道の心を感じました。その奥大使の『イラク便り』も出版されました。 (P16へ続く)

『ちいさいぶつぞう

おおきいぶつぞう』

『からだの中からキレイを

つくるパワー・レシピ』

加藤奈弥

講談社

ダライ・ラマと

ダニエル・ゴールマン編著

アーティストハウス

『なぜ人は破壊的な
感情をもつのか』

『仏教が救う日本の教育』

宮坂宥洪 角川書店



はな 東京書院

はなちゃんがあつたぶつぞう、というより仏様のかずかずを楽しいイラストと素晴らしい写真で紹介した、とてもなごめる一冊です。

観る人、挙げる人によってこれだけ違う見方があるということがわかつて驚きの連続でした。



加藤奈弥

講談社

『なぜ人は破壊的な
感情をもつのか』



「真の仮性とは他者に微笑みをうつすことかもしれない」というのは映画地球交響曲監督龍村仁氏の解説の言葉です。

同時多発テロ以来、破壊的愛情が地球を支配し始める今、その根本原因に目を向ける必要に迫られます。その破壊的な感情の源がわかれれば、その感情を納めることもいざめることも可能です。

旬の物を旬にいただく。その時期にない物は旬の物ではありません。旬の物を正しくいただくレシピが満載の本書です。

旬の物を旬にいただく。その時期にない物は旬の物ではありません。旬の物を正しくいただくレシピが満載の本書です。

旬の物を旬にいただく。その時期にない物は旬の物ではありません。旬の物を正しくいただくレシピが満載の本書です。



日本の教育の現状が極めて困難な状況にあります。心ある人々が発信をしますが、拡がりません。それは言論の自由を謳うマスメディアが他国の顔色をつけては映画地球交響曲監督龍村仁氏の解説の言葉です。

始し、仏教のどこに教育の救いがあるかがありません。近代で失われてしまった日本で一般庶民が何を学び、真言宗ではどのような学問の方法があつたのかを示すべきです。今号に紹介した実語教無くして日本の道徳教育は語れません。



次号特集 美しき料紙の世界

Editor ABE RYUJU Art Director and Photographer/TATSUKI SHU FUJIWARA Editorial Staff/ SAMURO MIWA Ooyama CHIGUSA SHIMAZU
RYUTOKU KAWASAKI YUKIKO KAWAMURA KAZUYA Making Mechanic SHOEIDO Printing KORINKAKU

EDITORIAL OFFICE MANGANJI SHUGEISHUCHIIN S.H.C

〒158-0082 東京都世田谷区等々力3-15-1 電話 03-3705-1622 フaxシミリ 03-3703-4979

Shingon Horonic Irowanioedo 第一巻第三十号 平成十六年弥生一日発行

R100